

らしんばん

編集・発行

大阪府立高等学校 PTA 協議会
中央区糸屋町2丁目1-1
三和センチュリービル701号
TEL 06(6809)6440
FAX 06(6809)6445
E-mail:oskpk@angel.ocn.ne.jp

<主な記事>

- 学校訪問記
- 部活動紹介
- ブロック研修会報告
- 熊本地震の被災地を訪ねて



訪問シリーズ (81) 箕面高等学校



例年実施されている学校訪問で令和3年度の1校目として、9月に箕面高等学校を訪問していただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が継続されている等、社会情勢を鑑み役員会で協議した結果、学校訪問を中止とし、学校紹介で代替とさせていただきます。

箕面高等学校は、大阪府北部 箕面市の南部に位置し、校舎からは北摂の山々を見渡せるロケーションの良い立地で、阪急箕面線の牧落駅から徒歩10分程の位置に、また北大阪急行千里中央駅や阪急宝塚線豊中駅からはバスで約15分のところにあります。日本の滝百選に選ばれている箕面大滝へは、徒歩だと1時間強かかりますが、少し歩くと田畑があったり自然もたくさん残っています。

学校は昭和38年に創立され、今年度で創立59周年目を迎えています。現在はグローバル科と普通科の2学科で3学年合計26クラス、生徒数は1030名(2021年9月30日現在)となっています。

北摂地域に基盤を置く府立高校としての基本を踏まえつつ、「海外大学に一番近い府立高校」として、校訓である「自主自律」(基礎学力の定着をはかり、授業や学校生活を通じて自ら考へ目標を設定し、計画的に実行する中で自分の進路を切り開く力)「和親協力」(生徒が主体的に運営する学校行事や部活動等において、互いを認め合いながら課題を解決する過程で、人



間力を高める。)のマインドを持ち、グローバルな視点で、高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる、生徒・教職員がともにチャレンジする学校づくりを進めています。

これらの方針の下、今年度も「ホンモノ」に出会い、感じる場づくり、「21世紀型スキル」発現の機会を作り、生徒の主体性・資質・能力育成のためにPTAと連携し、生徒・保護者向けの進路講演会等の積極的な開催、大学や大学のラボの見学会、海外進学の説明会、海外大学進学者との交流会等が行われて(予定されています)。

学校行事、部活動では生徒が主体的に運営することで互いを認め合い、チームで問題を解決する過程でリーダーの資質を身に付けていけるようにしています。学校行事については他校同様、昨年度、今年度と新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けましたが、体育祭、文化祭、沖縄への修学旅行等大きな学校行事をほぼ予定通り終えることができました。生徒・教職員とも感染症・熱中症対策に万全を期して準備を進め、臨むという高いレベルのCHALLENGEを成し遂げたことは、箕面高校が誇りとして将来にわたって胸に刻むべきことだと思います。

次にPTA活動ですが、体制としては役員(会長、副会長、書記、会計)、学級委員、企画委員、生活委員、広報委員等で構成されています。基本的には1年時に選出され、3年間活動を継続します。活動内容は学年懇談会、学級懇談会



今回、学校紹介の機会を頂いたことに熱くお礼申し上げます。学校訪問にお越しいただけず、箕面高校自慢の自由な校風や自主自律、和親協力のマインドを志す生徒やそれを導いてくださっている先生方と触れ合っていただけないかったのは残念な限りです。箕面高校に興味をもった方は学校のホームページやその中のオンライン学校説明動画等をご覧ください。



や各種研修会の企画や実施、コロナ禍以前は保護者間の交流等を目的とした大学見学バス研修、文化祭でのサロン運営、受験生向け夜食講習会等活動を行っていました。

昨年度はコロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、従来の活動の大半を中止せざるを得なくなりました。コロナウイルスの影響でこれまでのPTA活動のあり方について大きな見直しを余儀なくされ、昨年度の実行委員会(役員、各委員、学校の代表で構成)では、活動の見直しやそれに伴う規約の修正に大半の時間を費やしました。そんな中、まずは生徒の福祉の増進(家庭と学校が両手で生徒を包み込み、支える)という方針が共有され、PTAと学校の連携による各種研修、講演会の充実、花植え(校内が樹木中心でお花が少なかつた)が立案、実施されるようになりました。またマスクの不足期にはPTAで布マスクを作成して学校に寄贈しました。広報委員会では、PTAだより「瀧の音」という広報誌を発行していましたが、個人的情報保護の観点から従来のような紙面での広報誌の発行を断念し、代わりにPTAのホームページの充実を図る事となりました。

今年度のPTA総会でこれらに伴う規約変更も承認されましたが、蔓延防止措置の実施や緊急事態宣言延長の状況が長期間続き、今年度も思うように活動が進まず、多くの会員がもどかしい思いをしています。10月に入りようやく緊急事態宣言が解除され少しずつ各委員の活動もスタートしました。

部活動紹介

ダンス部

大阪府内の公立・私立の高等学校のダンス部が非常に健闘しています。

ダンスは、主催団体によって審査基準が異なるようですが、今回は、「第14回日本高校ダンス部選手権 夏の公式全国大会(2021年)」でスモールクラス準優勝の箕面高校とビッグクラス準優勝の久米田高校をご紹介します。

ダンス部に限らず、今後も健闘しているクラブ活動などをご紹介しますので考えています。



箕面高校

こんにちは。

箕面高校ダンス部『箕弾(みのだん)』です！ 私たちは現在、2年生41人、1年生41人の計82人で毎日楽しく、時に厳しく、仲間と切磋琢磨し合い、

部員同士のコミュニケーションを大切にしながら活動しています。「文武運動」をモットーに部活動だけでなく、勉強にも全力で取り組んでいます。2021年の7月に開催された高校ストリートダンス選手権 2021 決勝大会では引退試合として参加した3年生が104チーム中、見事日本一に輝きました。また、同

8月に行われたDANCE STADIUM 2021全国大会では、2年生がビッグクラスで全284校中14位、スモールクラスでは全245校中、準グランプリに輝きました。コンテスト参加だけでなく、地域のイベントにも毎年多数出演させていただいております。今年も箕面市とのコラボプロジェクト「1000 DANCE」や箕面市立文化芸術劇場で行われた柿落とし公演、また箕面市を拠点とされているプロバレエボールチーム・サントリーサンバーズ様が参加する公式戦の HALF タイムショー出演など、さまざまなイベントに参加させていただきました。

文武運動

私たちが部発足当時から掲げているスローガンは「文武運動」です。文武運動とは、勉強と部活は運動していると言う意味を持ちます。私たちは学校生活を基盤とし、それに加え部活動にも力をいれることを目標に活動しています。また箕弾は学校中の誰よりも学校生活を大切に、模範の生徒となれるよう心がけています。普段の授業から集中して取り組み、様々なルールを決め、学校生活と部活動とのメリハリをつけることを大事にしていきます。例えば定期考査1週間前では、部活動全面停止とし、それぞれが勉強に励みます。それに加え箕弾は、全国大会にも出場するため、箕面高校としての看板を背負う機会が多いため、普段より一層、箕面高校を代表する一人であるという自覚を持つよう心がけています。

社会貢献

私たちは様々な地域のイベントなどに



参加し、地域を盛り上げるための活動もしてきました。今年もコロナのため参加できなかった箕面祭りや豊中祭りなど、日頃の練習の成果を披露する場を設けていただくことも

あれば、箕面市で企画された「1000 DANCE」プロジェクトなど地域の方々や交流しダンスの楽しさを知っていただき、地域を盛り上げる活動に参加させていただくこともあります。また、企画から運営までを自分たちの手で行う引退公演会を通じて協賛という形でスポンサー冊子を作成し、地域の企業の皆様と同じく地域の皆さまへ知っていただくよう広報することで、地域の活性化にも貢献しています。箕面高校ダンス部として地域に貢献させていただくことは、普段からお世話になっている地域の方々への恩返しにもなっている地域の方々へ、これからもこのような活動を続けていき、ダンスの楽しさや箕面高校について知っていただけるように頑張っていきたいと思います。

久米田高校

大阪府立久米田高校ダンス部は2007年創立の14



年目を迎えるクラブで、現在3年生33名2年生18名1年生23名総勢

74名で三つの活動を柱に活動しています。

一つ目は私が赴任した10年前たくさん部員はいましたがまとまりきれずにそれぞれが活動していた状態でした。何とかみんなが1つになる目標と一言でビッグクラスのコンテストに参加することを決めました。何から手をつけていいのか分からない中で一番はじめにしたことは学校玄関のトロフィーケースを使わせていただく許可をいただくことでした。空っぽのトロフィーケース、これを自分たちのトロフィーでいっぱいにして。これが部員たちの最初の目標でした。初心者が多いチームでそして練習場所など恵まれているとは言えない状態でもどのように戦っていくのか、自分たちの弱みと強みは何かと言う話し合いを日々重ね、ダンスの練習をすることよりも話し合い、お互いの理解を深めることに重点を置いてきました。コンテストに何度も挑戦しその中で小さなトロフィーを1つ1つと手に入れてそうして幸いこの5年間においては日本高校ダンス部選手権という最大の大会において準優勝を三回いただくまでになりました。

二つ目は社会への貢献です。

ダンス部は学校の中では後発のクラブのため80人も部員が練習をする場を確保することは難しい時があ





ります。そのため地域の公民館や体育館また企業の体育館などをお借りすることもあります。そのような地域の応援に対し自分たちが

できる精一杯のお返しとして依頼があれ
ばできるだけ出演させていただくことを
しています。保育所でのクリスマス会、
病院や老人介護施設への慰問、また大
きな舞台としては御堂筋ランウェイなど
様々な場面で演技の披露させていただ
いてます。自分たちの演技を見ていた
だく事で多くの人に喜んでもらえること、
直接多くの人から褒めていただけること
これが高校生にとって大きな力を生み出
す自己肯定感を生み出してきていま
す。そのほかの社会貢献活動としては東
北地震や赤十字に対する募金活動、また
ウィッグが必要な人のためのヘアード
ネーション活動も行っています。これら
の活動を通して多くの人と関わる中で学
校の中だけではわかりにくい自分達の立
場や自分達の可能性を発見し、自分達か
ら行動していく大きな力を得ることがで
きています。

主公演の一番の魅力です。卒業する三月
に行うため、三年は受験との両立に悩み
ながらも仲間達と共に高校時代の今しか
できないことと取り組んでくれていま
す。部員達には学業を一番にし、その上
にダンス部で三つをおいかけけることは大
変ですがこれからも挑戦し続けて欲しい
と願っています。

(ダンス部顧問 八木克彦)

ブロック研修会報告



第2ブロック 島本高校

島本高校PTA会長 山縣 薫

去る11月6日、第2ブロックでは本
年度のブロック会議を催し、島本高校
が幹事校という大任を拝することにな
りました。ブロック内の各校をお招き
しての催しに役員・実行委員もドキド
キしながら当日を迎えました。

教員と生徒会有志によるオープニン
グのジャグリングでは、場内をいっぱ



い使った演出に大いに沸き立ち、参加校以上に緊張していたかもし
れない生徒会
有志達からも
とても良い表
情を見せても
らうことが出
来ました。

そんな高校

生達と大人はコロナ禍の今、どうつき
合うべきか、をテーマに据え、昨年好
評を博した仏教大学の原清治副学長に
今年も講演をして頂きました。先生の
話を初めて聞く方が多い中、複数回お
聞きになっていく方もおられるほど「ま
た聞きたい」と思う中身が濃くてメリ
ハリが利き、時間が経つのがあつとい
う間の講演に会場からは万雷の拍手が
起こりました。

続く第2ブロックの20校による取り

組みの紹介についても、各校の個性が
とてもよくわかる発表が次々と行われ、
その発表に見入ったり、時には笑いが
起きたり、どこも大変な中で出来る工
夫をしながら日々子ども達の高校生活
を支える活動を通じて交流を図ろうと
するなど、学びや気付き、想いを共有
できたのではないかと思います。

幹事校は持ち回りのため保護者とし
てこの役を複数回体験することはほぼ
皆無であろう中、担当教員の大きなサ
ポートもあり、この大仕事を盛況のうち
に幕を下ろすことが出来ました。

短い子ども達の高校生活の中で、保護
者としてこういった大仕事に携わる機
会というものは、誰にでもあるもので
はありません。今、各校で頑張ってお
られる役員の皆様そして会員の皆様
に「大変に思えるこ

とも仲間と一緒
になし得られ
る」とお伝え
し、来年のブ
ロック会議の
成功を今から
願っています。



第9ブロック 貝塚高校

貝塚高校PTA会長 森 郁子

11月5日(金)岸和田グランドホールに
て、第9地区公立高校PTA協議会が
開催されました。新型コロナウイルス
の影響によりギリギリまで開催が危ぶ
まれましたが、無事開催することが出
来ました。

第一部では、当番校である貝塚高校
の挨拶から始まり、各校の昨年度の活
動報告がありました。

やはり、どこの高校もコロナ禍で、
学校行事がやむを得ず中止になり子供
たちにたくさんさんの我慢を強いること
になりました。

この状況下でも制限を掛けながらで
あります。が体育祭、文化祭を行った
学校もあり、子供たちの青春の1ペー
ジを刻むことが出来たのではないかと
思うと喜ばしい限りです。

第二部は、いち自衛官から見た南海トラフ
地震への備え【中高生の防災意識を
高める一助に】という演題で、自衛隊
大阪地方協力本部阪南地区隊長の清水
智宏3等海佐をお招きしてお話をし
ていただきました。主に1.南海トラフ地
震の予測2.東日本大震災から学んだ事
3.自衛隊活動についてお聞きしました。

30年以内に70%〜80%、10年以内に20
%の確率で起きると予測されている南
海トラフ地震：清水氏は、ハザードマッ
プを用いながら、泉州地区の災害被害に
ついてや、災害時には長期的に電気・水、
食料不足に陥る可能性に言及し、最新の

ハザードマップを日頃から確認し、時と場所を問わず災害が起こる可能性があることを述べられました。災害時には、自助、共助、公助の連携が欠かせないとおっしゃっていました。自助とは、自分の命は自分で守る、自分のことは自分で何とかするということです。その為には、非常持ち出し袋の用意、避難訓練への参加、家具の転倒防止、避難ルート確認等事前準備が必要です。自分で守ることにより、家族や友人・隣人を助けに行くことが出来る。つまり、共助となり得ます。「救助される人」ではなく、「救助する人」になることが、自助の大事なポイントだそうです。共助は、企業、町内会、自治会など小さい地域での助け合いの体制、助け合うこと、公助は、国や地方公共団体の減災や災害発生時の対応をまとめていうそうです。中高生の防災意識を高めると子供たちが助かるのはもちろん、子供が真剣に防災について考えることにより、大人たちもそれに影響され、相乗的に防災意識が生まれることで地域防災につながる(共助)ということでした。

清水氏は、集団で防災意識を高めることが重要だと考えられており、防災教育に力を入れられているということでした。防災に対して受け身ではなく、自分の事として考えることが大切です。被害情報や避難状況を自分たちでしっかり考え行動することが大事だと改めて気付かされました。

最後に貝塚高校からは、13名の実行委員、顧問としてPTA前会長、前々会長が一丸となり、素晴らしい協議会を開催することが出来ました。会長として誇れるSKKP(最高・貝塚・PTA)です。

熊本地震の被災地を訪ねて

大阪府立福泉高等学校

生徒会部 高木 浩和

令和3年8月4日(水)～6日(金)の三日間、本校の生徒5名が熊本県益城町で、災害支援のボランティア活動を行いました。

1日目の8月4日(水)は、国の天然記念物に指定されている布田川断層帯(杉堂地区・堂園地区・谷川地区)を訪れました。大木が根元から倒れていたり、畦や作物がクランク状に横ずれしていたり熊本地震の爪痕が生々しく残っている様子を見学しました。夜のミーティングで生徒たちは「もし自分が同じ状況下にいるら、パニックになってしまいかもしれない...」「この三日間で学ぶことを、今後西日本で起こると予想されている南海トラフ地震に生かしたい」など、それぞれが考えたことを発表しました。

2日目の8月5日(木)は、木山仮設団地へ行き、益城町社会福祉協議会の方から熊本地震のボランティア活動の取組みについて説明を受けました。その後、益城町住民の方と交流しました。熊本名物の「いきなり団子」をご馳走になりながら、地震が起きてから現在に至るまでの体験談を聞かせていただきました。昼食後、仮設団地の集会所(みんなの家)で清掃活動をした後、今回のボランティア活動についてまとめた生徒会新聞を作成しました。この新聞は、二学期始業式で全校生徒に配付しました。

3日目の8月6日(金)は、熊本市動植物

園へ行き、震災の被害を受けてから全面開園に至るまでの経緯をまとめた展示パネルを観覧しました。以前のボランティア活動でお世話になった「くまもと友救の会」の方が来ていただき、一緒に園内を散策しました。

三日間の活動を通して、熊本地震についてあらためて学ばせていただきました。2019年に続き、二度目の訪問となり、この二年間で復旧・復興が進んでいることについても知ることができました。また、コロナ禍により、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、制限がある中での活動となりましたが、参加した生徒たちは熊本地震の被害を肌で感じ、災害ボランティアについて学びを深めることができました。私たちが快く迎え入れ、熊本地震のことを(ありのまま)教えてくださった益城町の方々にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



(上) 布田川断層帯(堂園地区)にて。畦や作物がクランク状に横ずれしている。
(下) 木山仮設団地「みんなの家」にて。熊本地震のボランティア活動の取組みについて説明を受ける。

大阪府立高等学校 PTA協議会の団体補償制度 「高校生総合補償制度」・「自転車総合補償制度」

- ポイント1 団体割引20%適用!
- ポイント2 お子様のケガを24時間補償
- ポイント3 育英費用補償・被害事故補償をセット
- ポイント4 自転車事故に限定したプランもご用意しています
- ポイント5 個人賠償責任補償は最大2億円・生徒だけでなくご家族も補償
- ポイント6 安心の示談交渉サービス付き

(このご案内は概要です。詳しい内容はパンフレットをご参照いただき、ご不明な点があれば下記幹事取扱代理店までお問い合わせください。)

中途加入を随時受け付けております。
中途加入のお申込みは下記幹事取扱代理店までご連絡ください。

幹事取扱代理店 損保ジャパンパートナーズ株式会社大阪支店
〒541-0048 大阪市中央区瓦町4-1-2 電話0120-809-805 (受付時間: 平日9-17時)
引受保険会社 (幹事) 損害保険ジャパン株式会社 (非幹事) 東京海上日動火災保険株式会社 Chubb損害保険株式会社

編集後記

秋の深まりにつれ、コロナの感染者も減少し自粛生活の解禁が徐々に進んでいます。本紙が届く頃にはどのような状況になっているのか全く想像つきません。家族以外の人達とも気軽に会ったり、食事ができるようになってきていることを願うばかりです。今年度も前半はPTA活動どころか学校活動すらままならず、何度も休校を余儀なくされた学校も少なくなかったと思います。Zoom等を利用し集まらずとも顔を見ながら話すことはできるものの、やはり対面の安心感は別物だと思われ知らされました。この第82号の発行もオンライン会議で四苦八苦しながら話し合い、なんとか発行に漕ぎ着けました。ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

広報委員長 杉本 聡



「子どもは社会を映す鏡」。さあ、私たち大人ができることから「変身」!